

令和5年度 自己評価結果票

社会福祉法人三原のぞみの会
幼保連携型紅梅認定こども園

1. 教育・保育目標

◆子どもの発達の連続性を考慮した環境の中で、0歳から就学前までの一貫性のある教育・保育を行い、一人ひとりがそのらしさを発揮し、共に育ち合う生活を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

<めざす子ども像>

- ・自分のしたい事に夢中になって取り組む自分大好きな子ども
- ・友だちと心を通わせてあそびや生活を作り出せる友だち大好きな子ども
- ・自然の神秘さや不思議さに感動し生き生きとあそぶ自然大好きな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

◆幼稚園・保育園の機能を併せ持ち地域の子育て支援の充実を図る

- 1, 保育教諭の質の向上
- 2, 教育・保育内容を見直し、改善していく
- 3, 地域子育て支援を充実（地域全体を見廻し子育て支援を行う）
- 4, 職場環境の改善をし、人材の確保・育成・定着に繋げる
- 5, 感染症対策、大規模自然災害への対応にそなえる

3. 教育及び保育の内容の概要

- ・0歳児 特定の保育教諭との応答的なかわりの中で、安心して過ごせるように情緒の安定を図る。
- ・1歳児 一人ひとりの気持ちを理解・受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことが出来るようにする。
- ・2歳児 自己主張をしたり、反抗したりするときの一人ひとりの気持ちを受け止め共感し、自我の育ちを援助する。
- ・3歳児 自我の成長を踏まえ、子どもの気持ちや考えを受容し、主体的な行動を促していく。
- ・4歳児 自分の力を発揮していく中で、「達成感の喜び」や「満足感」を味わい、自信を持って行動できるようにする。
- ・5歳児 自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高めていくようにする。

4. 成果

- 新園舎で2年が経過し、園児職員共に、生活環境に余裕を持って運営できるようになってきた。
- 職員の質の向上の為、職員のキャリアアップ研修を増やした。また、園内研修では公開保育も増やした。幼児教育アドバイザーに来てもらい、公開保育の実施の中でアドバイスをもらい学んでいった。
- 新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきて、社会的にも以前のような環境が戻ってきた。園内の行事内容、食育や地域との交流も制限なく行うことが出来た。
- 地域子育て支援センターの来園人数も増えてきた。イベントも試食会やクッキングなど食育につながる内容を盛り込んだものを始め、人気のイベントとなっている。未就園の親子がたくさん来園してくれるように計画していった。
- 今年度は、災害、集団感染での休園する日もなかった。しかし、今後大きな災害時に備え、月1回以上の避難訓練を通して、園児や職員の動きを分析し改善を行っていった。

5. 課題

- 1, 法人理念、保育目標、目指す子ども像を全職員で再確認し、意識統一を図る。
- 2, 具体的な教育・保育内容の質の向上、実践に努める。
- 3, 職員確保(保育教諭)・人材育成の実行。職員のやりがいや職務内容の充実・意識化を図る。
- 4, 未就園の親子に焦点を当て、地域の子育てが孤立しないように支援をしていく。
- 5, 大規模自然災害対策、感染症対策に努める。

6. 財務状況

当法人監査により、適正に運営されていると認められている。